



＜学校教育目標＞

◎規律ある学校生活を通して、確かな学力を身に付けさせ、健やかな体と思いやりのある心豊かな生徒を育成する

令和3年度全国学力・学習状況調査における北九州市立中央中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。  
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容
- ※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

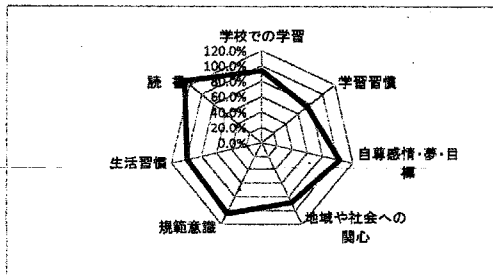
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

教科	全体的な傾向や特徴など	質問の意図を捉えたり、状況に応じて文章の工夫を考えたりするなど、読み取りの能力や関心・意欲に関する問題は、正答率が全国平均正答率と概ね同程度となっている。しかし、敬語の種類や漢字の読みなど、知識・文法的な問題の正答率が低く、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
国語	よくできた問題	問題番号3三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題	下回っている
	努力が必要な問題	問題番号4三 相手や場に応じて敬語を適切に使う問題	
教科	全体的な傾向や特徴など	計算や数量の関係など、基本的な問題は正答率が全国平均正答率と概ね同程度である。しかし、説明問題や証明問題といった、自分の考えを順序立てて説明する問題は正答率が低く、無解答率も全国平均より高くなっており、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
数学	よくできた問題	問題番号7(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題 問題番号8(1) ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題	下回っている
	努力が必要な問題	問題番号4 関数の意味の理解を問う問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



質問紙調査の結果分析

- ・読書に関する項目は全国平均を大きく上回っており、図書室利用の工夫も相まって大きな成果を挙げている。このことが、教科での読み取る力の向上につながっていると考えられる。
- ・将来の夢や目標を持つ生徒は全国平均をやや上回っており、自尊感情の高まりが見られる。
- ・地域社会への関心は、全国平均を下回っているため、地域とのふれあいや共働ができる機会を徐々にできればよいと考える。
- ・学習習慣に関しては、全国平均を下回っているため、適切な分量の宿題や課題を課したり、タブレットを用いて学習への動機づけをさせたりすることで、学習習慣定着への一助としたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語・数学に共通して、基本的な知識・技能の更なる定着のために、ドリル学習などを行っていく。また、授業中に自分の考えを深めたり、自分と他者との意見交流する場を効果的に設定したりして、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。また、定期考査の出題の工夫・発問の工夫・適切な内容の宿題を課すなどしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

就寝・起床時間などは定着している生徒が多く、基本的な生活習慣は確立されていると考える。地域社会への関心が薄いため、学校行事において、地域社会との関わりをもてる取組を設定するとともに、生徒への声かけや、通信などで家庭や地域にも発信していく。